

熊本高専八代キャンパス 女子寮増改築計画，北寮食堂周辺・中庭整備計画の提案

磯田 節子* 五十川 読**

Renovation Plan of the Women's Dormitory at Yatsushiro Campus, NIT, Kumamoto College
Setsuko Isoda*, Satoru Isogawa**

This paper discusses the renovation plan of enlargement of our women's dormitory with reference to Ochadai SCC and Kurume Kosen's women's dormitory. And also it discusses the improvement of our dormitory's student cafeteria and courtyard. Recently female students are increasing and our women's dormitory become short. On the other hand, our men's dormitory is increasing vacancies. So, we have proposed the renovation of men's dormitory to the women's dormitory. The dormitory is the most important educational place much the same as classrooms. Especially, common spaces are important for students' communication. It is necessary that it is comfortable space.

キーワード：高専女子寮，改築，お茶大 SCC

Keywords：Kosen's Women's Dormitory, Renovation, Ochadai SCC

1. 熊本高専八代キャンパス女子寮増築計画等策定に至る背景

平成21年10月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が統合再編され，現在の熊本高専となり，翌年より熊本高専八代キャンパスの1期生が入学した。新学科は両キャンパス共に3学科体制となり，旧学科に対して1学科減となったため，男子寮生数については年々減少し，一時期は400名近くいた寮生が平成25年度では250を少し超える程度となっている。

一方で，女子学生数については再編前後で大きな変化はなく，入寮生数についても80名前後で推移している。今後，この比率で推移すれば，いずれは女子寮居室に関して10名程度の不足が見込まれる。

さらに，平成21年には留学生・ゲストハウスフロア（南寮西1F）及び専攻科フロア（南寮西2F）の設置改修が行われ，留学生や専攻科生専用のフロアが完備したが，これは，男子学生のみが対象のフロアであり，寮環境に関しては，この点で男女間に不公平が生じている。実際に，現在は男子専攻科生の入寮は認めているものの，女子専攻科生については，本科生優先の観点から入寮募集をしていない。また，女子留学生についても，居室不足により受入が十分できていない。特に，短期留学生に関しては，女子留

表1 熊本高専寮生数の変化

年度	八龍寮生数(留学生)	在学生数	入寮率%	夕葉寮生数(留学生)	在学生数	入寮率%		
16	324	8	663	49	83	0	229	36
17	339	8	670	51	87	1	215	40
18	332	8	679	49	87	1	212	41
19	335	5	691	48	72	1	197	37
20	332	6	693	48	73	0	195	37
21	306	4	699	44	73	1	196	37
22	291	5	679	43	78	1	197	40
23	272	3	653	42	78	2	200	39
24	243	2	596	41	80	1	202	40
25	257	1	562	46	82	1	189	43

学生の入寮ができない状態が続いている。

このような状況を背景に，女子入寮スペース不足解消を図るために平成25年度寮務委員会において増改築案を検討し，併せて現在殆ど活用されていない中庭の利活用を図るため，北寮食堂周辺の整備を合わせて検討した。本稿ではこれらの検討プロセス及び各計画案を報告する。

2. 事例調査

2.1 調査の概要

女子寮の増改築を検討するにあたり，近年竣工した学寮であるお茶の水大学 SCC (Students Community Commons) 及び久留米高専女子寮を視察した。調査概要を表2～3に示す。

表2 調査日等

	お茶水大学寮	久留米高専女子寮
視察日	2013/7/17 (2時間)	2013/7/11 (2時間)
視察先対応者	望月准教授(学生支援センター) 北澤特任アソシエイトフェロー(キャリア支援センター)	平河寮生活支援係長、 谷寮務主事補
視察者	磯田(寮務委員)	木村(寮務係長)、磯田(寮務委員)

* 建築社会デザイン工学科
〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627
Dept. of Architecture and Civil Engineering,
2627 Hirayamashinmachi, Yatsushiro-shi, Kumamoto, Japan
866-8501

** 共通教育科
〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627
Faculty of Liberal Studies
2627 Hirayamashinmachi, Yatsushiro-shi, Kumamoto, Japan
866-8501

表3 調査概要

	お茶大SCC	久留米高専女子寮
竣工年	平成23年4月	平成24年4月
形式	シェアハウス型	従来型
定員	50人(50室)	30人(個室14室、2人用8室)
入寮学年	1, 2年(一つのハウスに1, 2年生が混合して暮らす)	1~専攻科生
個室面積	7㎡/個室	9㎡/個室
特徴	あたかも普通の家の家庭のように、リビングルームを中心に部屋が5室、キッチン、浴室、トイレ等を備えた一つの「ハウス」が住まい単位となる。 学性が寮を自分たちの住まいとして積極的にに関わり、良好なコミュニティを形成していく住まい方を目指して提案された。	個室と2人部屋、共同の浴室、トイレ洗面等が備えられている従来型。
課題	ハウス間の交流	特になし
備考	従来型の既存の学寮の増築にあたり、新しいコンセプトの下に提案された。計画策定に2年間を要している。 掃除当番等はハウスごとにルールを決める。全体的な組織としてイベント等を実施する各種委員会があり、講演会などによる学生自身の勉強に加えて、地域との連携活動も行われている。	この時期に女子寮が建設された理由として久留米高専の立地や地域性から通学できる学生が殆どで、これまであまり寮の必要性がなかったとのこと。しかし近年より広域からの学生が入学するようになり、必要性が生じ寮の建設に至る。

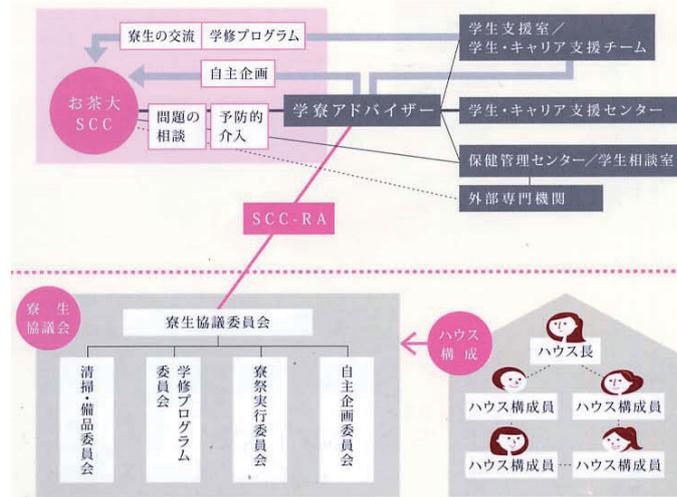


図1 大学のサポート体制(上)と寮生組織
(お茶大SCCのご案内より)

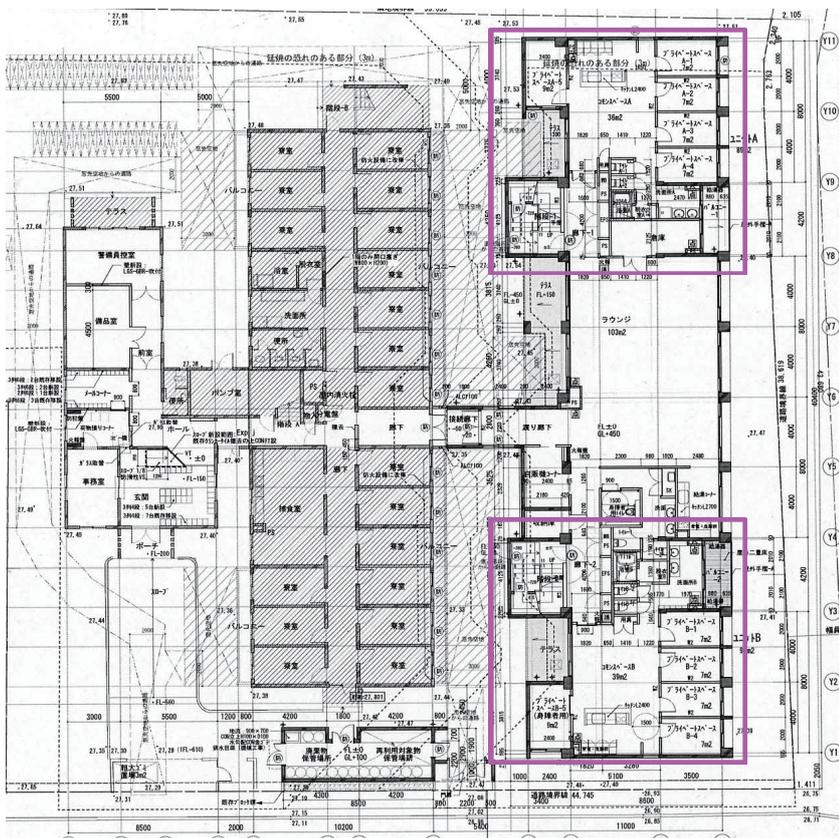


図3 お茶の水女子大学 学生寮 1階平面図
(斜線部分が既存の小石川寮, 右側が増築されたSCC。□が一つのハウス。望月氏提供)



図2 お茶大学寮配置図
(お茶大SCCのご案内より)



図4 一つのハウスの平面構成
(お茶大SCCのご案内より)



図5 お茶大SCC 外観



図6 1階にあるラウンジ



図7 ハウスのリビング



図8 既存の小石川寮

2.2 お茶大 SCC について

新たな寮増築にあたり新しいコンセプトの寮を建築する委員会が学内に設置された。一度提案されたが内容が不十分ということで差し戻され，その後約 1 年間にわたり議論され再提案された案である。メインコンセプトは“ともに住まい，ともに成長する新しい学生寮”である。学生間のコミュニティを促し，学生自身で寮を自分たちの住まいとして主体的に維持・管理していく仕組み，即ち Students Community commons として，5 室を 1 ユニットとするシェアハウス型の寮が提案された（図 3～4）。

5 人が一つの小さなコミュニティ<ハウス>で暮らす。ハウスには 1，2 年生が混合して居住する。個室を確保しつつ，キッチンや浴室は 5 人のハウスマンバーで共有する。個室は 7 m² と学寮の一般的標準の 9 m² より小さく，その分共用スペースとして広いリビングが確保されている。個室の一つは車いす利用者が使いやすいように引き戸となっており，他より若干広めの部屋となっている。

一般の家庭用のキッチンと浴室が備えられており，家庭的な雰囲気である。掃除当番などのルールは各ハウスで決める。個室の壁は特に防音に配慮されておらず，お互いに配慮しながら生活することを学ぶことが意図されている。

寮には管理人が常駐する。基本的に自治寮なので，主なルールは門限 24 時（帰らない場合は連絡）と 2 年間在寮すること，程度である。視察した時，一人の学生が個室ではなく，リビングで勉強していた。「個室では眠くなるので」とのことだった。

SCC 全体として学修プログラム委員会などの 4 つの委員会があり（図 1），学生はどれかに参加することが義務付けられている。各委員会が SCC 全体のイベント等を企画し実行するが，各ハウス間の交流が課題の一つだという。

“学寮が学生を成長させるもう一つの学びの場である”として，学校側の支援体制も厚く，熱心である。

2.3 久留米高専女子寮について

この時期に女子寮が建設された理由として“久留米高専の立地や地域性から，通学できる学生が殆どでこれまで寮の必要性があまりなかった”とのことである。しかし，最近の女子入学生の増加に伴い，遠隔地からの女子学生も増加し，女子寮の必要性が高まり建設に至る。平成 25 年 4 月に竣工した。女子学生数は本キャンパスより若干多い 2 18 名（平成 25 年 4 月 1 日）。女子寮の定員は 30 名で個室が 14 室，2 人部屋が 8 室の従来型の平面構成（図 9～10）である。一階に廊下の延長として補食室と多目的室がある。テレビも置かれている。開放的で気持ちのよい空間である（図 11）。昼間は寮母さんが対応する。寮全体の宿直室は女子寮 1 階にあり，教員（男性）が男子寮、女子寮を巡回する。女子教員の宿直はない。出入り口には全方向カメラ，及び警報装置が設置されている。各部屋の各個人別に非常用ベルのスイッチが設置されている。掃除用ロボットが廊下を掃除していた（図 11）。北側に中庭があるが，活用されていない。

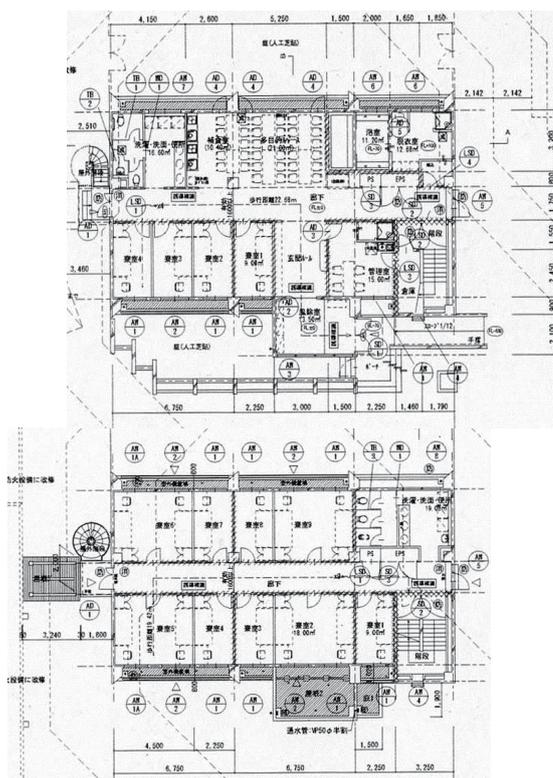


図 9 久留米高専女子寮 1 階，2 階平面図
（平河氏より提供）

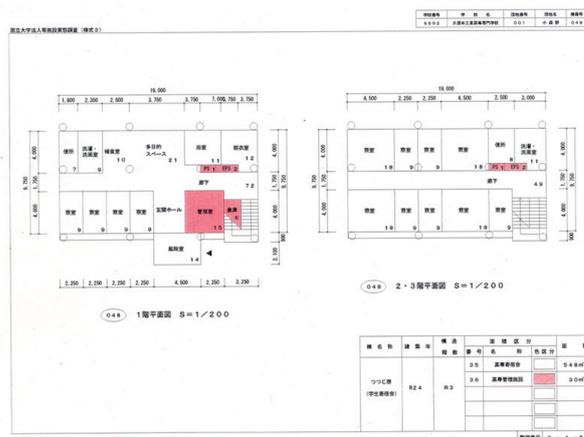


図 10 久留米高専女子寮 1 階及び基準階平面図
（平河氏より提供）



上左：外観
上右：補食室と多目的室
下左：傘置き場が備えられている個室のドアと掃除用ロボット
下右：廊下

図 11 久留米高専女子寮

3. 八代キャンパス女子寮増築計画案

3.1 八代キャンパス女子寮増築計画案

当初は夕葉寮に隣接する別棟を新たに新築する案を検討していたが、男子寮の空部屋の増加傾向がみられることから、北寮の東側、食堂の上階の2階部分を女子寮に改築し、夕葉寮と繋ぐ案に切替えて検討した。この案の第一のメリットは、男子寮の空部屋の有効活用をすることができ、別棟新築案より建設費が少なく済むことである。

夕葉寮との接続は夕葉寮2階西側のテラス部分に吹きさらしではない廊下による接続を提案している。廊下で繋ぐ

ことにより、セキュリティを確保し、夕葉寮とのアクセスをより容易にして浴室や食堂へはこの廊下を通してアクセスできる。予算上の都合でもし仮に廊下ではなくて、例えば既存の非常階段からのアクセスになる場合は、一旦外に出るといった不便さが伴う。セキュリティの確保対策が求められる。

内部は、既存の3人部屋を新たに仕切りをして個室2部屋に改装する。当該案では12室の個室が確保できる。夕葉寮側に補食室やミーティングルームなどの多目的室を計画している。これらの多目的室は久留米高専女子寮を参考

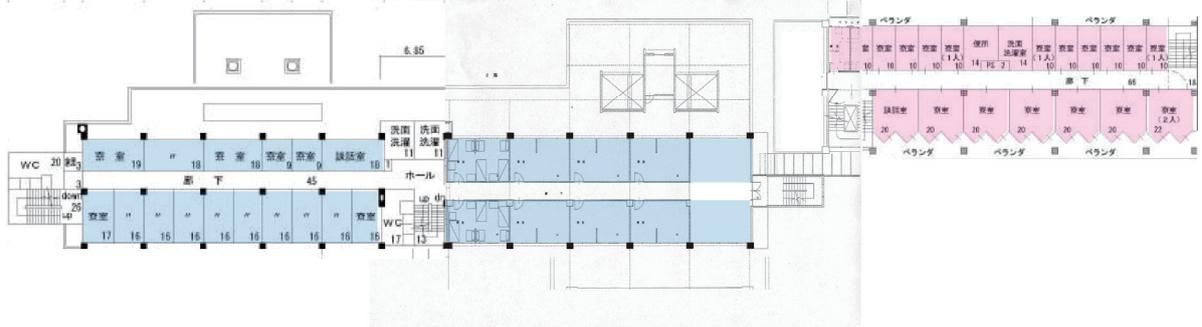


図12 現状の北寮・夕葉寮2階平面図

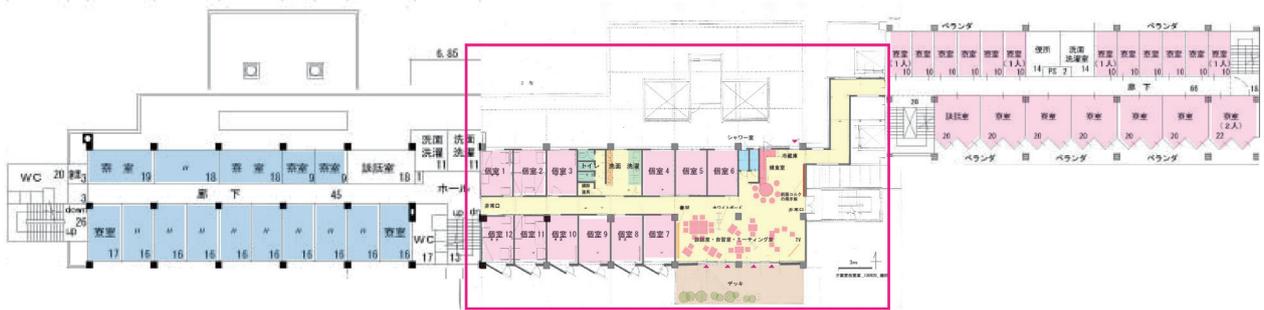


図13 北寮の2階の東側を女子寮に改築した北寮、夕葉寮2階平面図

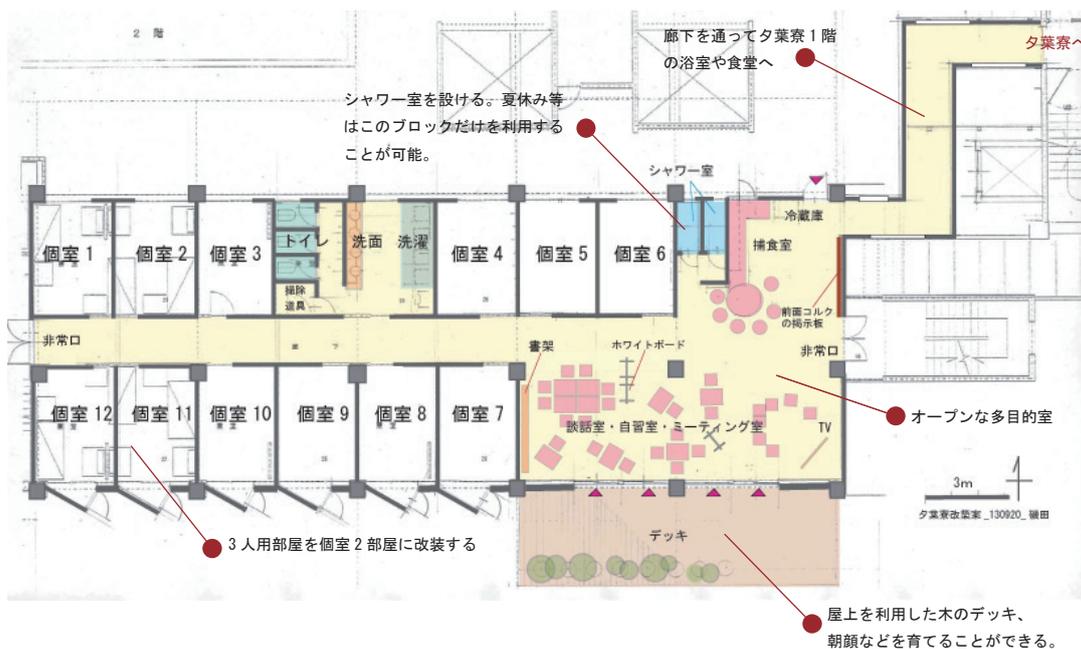


図14 北寮の2階の東側を女子寮に改築した平面図

に仕切りを無くしてオープンな空間としている。また、このオープンな多目的空間に面して外部の屋上のテラスに木製のデッキを設けている。このデッキでは例えば朝顔などの植物を育てることができる。お茶大 SCC のシェアハウス型の事例は個室を確保しつつ同時に学年を超えて寮の仲間や教員との交流の場としての共同空間の重要性を示している。従って共同空間としての多目的空間をできるだけ居心地の良い空間にすることが求められ、本計画もそのような考えの下に計画している。また例えば植物等を育てることができるような場があることは、寮を自分たちの住まいとしてより快適にしようとする積極的な維持管理の姿勢を育てるものとする。

また、シャワー室を設ける。シャワー室を設けることにより、夏休み等に留学生や残寮する学生がこのブロックのみに滞在することが可能となり管理がやり易い。

夕葉寮の女子学生にこの案を示して意見を求めた際に次の2つの意見が出された。①多目的空間に面している個室は騒がしいのではないかと②こちらの増築部分がより快適になって、既存寮と格差がつくのは良くないのではないかと①の意見は共同空間を騒がしくてやや迷惑な場として捉えられている感がある。お茶大の従来からある既存の小石川寮をみると、所謂従来型の寮は個室中心で共同空間としては補食室程度しかなく、あまり重さが置かれていない。お茶大 SCC ではむしろコミュニティ形成の場として共同空間の方に重きがおかれ、共同空間をどのように活用するか、また一方で共同空間を使う際の配慮が求められることも教育の重要な一つとして位置付けている。これは近年の寮の新たな傾向と思われる^{注1}。寮の計画の重要なポイントが共同空間の在りようにあるといっても過言ではない。②については尤もな意見ではあるが、新しく計画する案はより進化させていくべきであるとする。現在、頻繁に部屋替えがあるので、不公平にはならないと考える。

3.2 八代市役所建築指導課よりアドバイス

八代市建築指導課にお願いして女子寮の増改築計画部分を視察していただいた。本校施設企画係の宇野さんにも立ち会いをお願いした。夕葉寮と北寮を廊下で繋ぐには、北寮の北側の窓がある壁、もしくは東側の壁に穴を開けなければならない。指導課より①梁の位置を確かめて構造上支障がない所で開ける必要があること、②繋ぐことで北寮と夕葉寮が一棟の建築物になるので建築基準法により新たに対応が必要な制限等があると思われるが、一方、国の施設なのでその具体的な対応については持ち帰って詳しく検討したい、とのことであった。

その後、指導課の松本さんより寮の増改築について次のアドバイスをいただいた。①夕葉寮と改築する北寮との間隔が3m以内なので、「夕葉寮と北寮は一棟扱い」となる。②寮は特殊建築なので全体として耐火構造にしなければならない。従って夕葉寮と北寮をつなぐ「渡り廊下」を新たに設ける場合は、吹きさらしかどうかの形状を問わず「渡り廊下」は「耐火構造（例えばRC造）にしなければならない

い」。③「国立高専機構施行令」により、手続きとしては「計画通知扱い」となる。構造計算は不要。仕様等については要件があるので、具体的な計画案が示された段階で再度検討する。

4. 北寮食堂周辺・中庭の整備計画案

女子寮の増改築を検討する機会に、併せて北寮食堂とその周辺・中庭を寮生はもとより保護者、地域の方々が講演会等により活用できるように、北寮食堂周辺・中庭の整備計画案を検討した。地域の方々との連携も寮生の教育の一つとしてこれからの重要な課題の一つと考えられる。図15に整備計画案を示す。食堂の東側は、現在は芝と植栽になっているが、そこを広場とし第一体育館方面からの見通しを良くする。このことにより第一体育館方面からの食堂へのアクセスを確保する。寮でのイベント開催時はこちらから保護者や地域の方々を誘導することができる。

現在中庭は重厚な庭石が数多く置かれ、松などが植えられて日本庭園風に設えられている^{注2}。しかし、現状では中庭は残念ながら殆ど利用されず、内部空間と完全に断絶した状況にある。

そこで、本計画案ではミーティングルームから連続するように木のデッキを計画している。気候が良い時期にはテーブルを持ち出しそこで話合いをしたり、バーベキュー等を楽しむことができる。

5. おわりに

お茶大 SCC でも強調されていたが学寮は教室での学びの場と同じように重要なもう一つの学びの場である。即ち学生が友人や教員、地域の方々との交わりの中で学び成長する重要な場であることを今回の寮の計画を検討する作業を通して再確認することができた。そのような学びの場として特に共同空間が重要であることをお茶大 SCC の新しいシェアハウス型の提案は示している。個として静かに過ごす空間と友人や教員、地域の方々と交流する共同空間のバランスが大事で、特に共同空間の在りようが学寮の設計で重要なポイントであり、居心地がよい空間であることが求められる。共同空間は、久留米高専の事例からもできるだけオープンな空間であることが良いと考える。また、学生が寮を自分たちの生活の場としてより積極的に寮の維持管理に関わることも重要で、お茶大 SCC のシェアハウス型の提案はそのことを強く意識している。

本稿では、最近竣工した女子寮の視察及び、それを基に2013年度の寮務委員会で検討した夕葉寮増築計画案及び北寮食堂周辺・中庭の整備計画案について検討プロセスと各提案を示した。今回は学生諸君と十分な話し合いができなかったが、学生諸君との話し合いもより良い寮の計画のために重要な一つのプロセスと考える。できれば学生側から案を示してもらって検討できれば、これも寮における重要な教育の一つとなる。

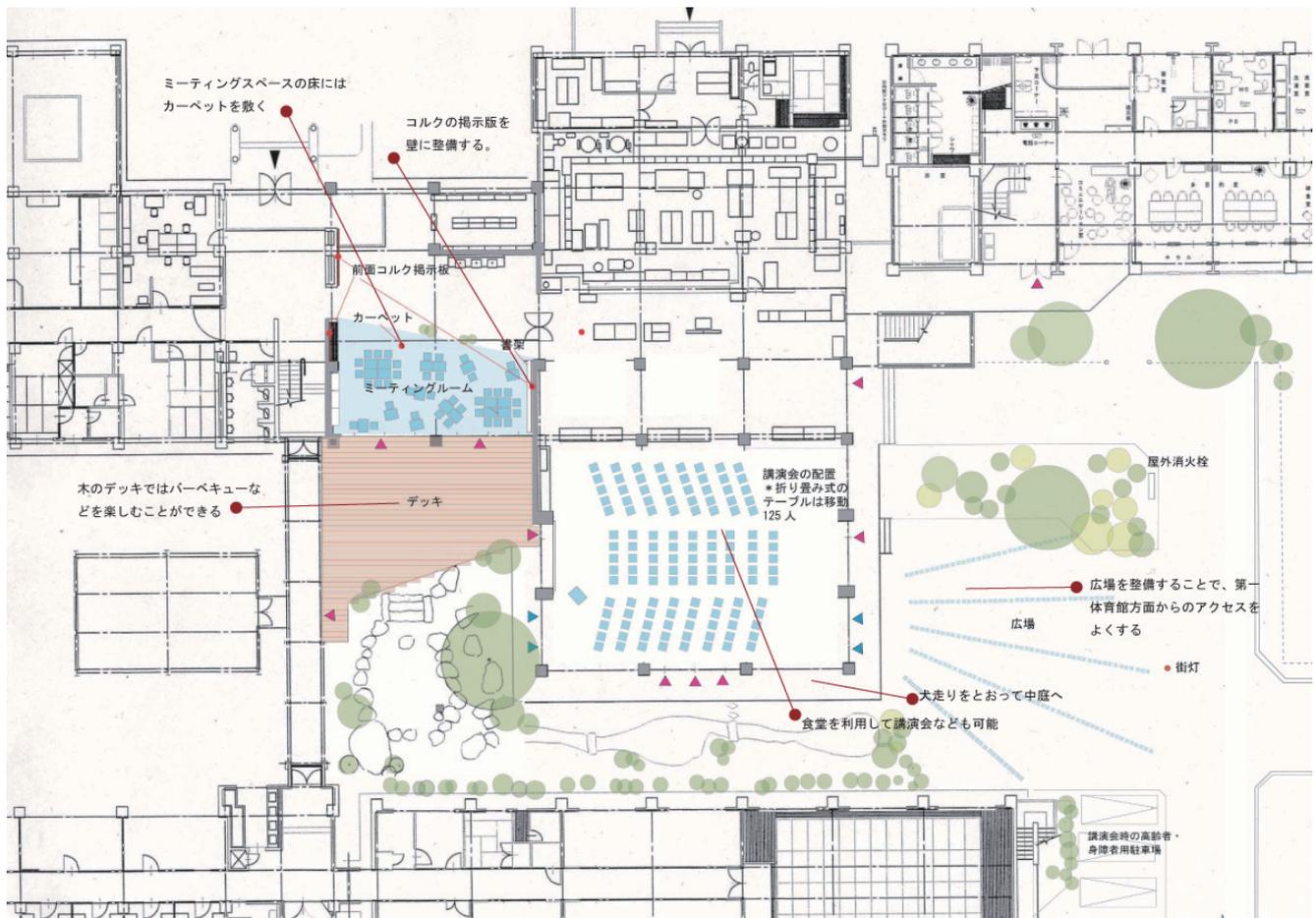


図 15 北寮と中庭の改築計画案

最後に視察にて丁寧にご対応をいただいたお茶の水女子大学の望月先生、北澤先生、久留米高専の平河係長、谷先生に厚くお礼を申し上げます。

(平成 26 年 9 月 18 日受付)

(平成 26 年 12 月 3 日受理)

注釈・参考文献

注釈

- 1) 1991年に竣工した再春館製薬女子寮（熊本市）は80人の新入社員のための女子寮である。最初の1年をここで過ごす、この建物に求められたのは個室を充実することではなく、むしろ80人が集まって生活することを最大限に生かせるプログラムである。従って各自のスペースは最小限に抑えられ、全員で使うリビングスペースが大きく豊に計画されている。このように民間企業の事例では共同空間を重要視する事例が1990年代に見られるが、学寮として共同空間を重要視するシェアハウス型などは最近の傾向である。
- 2) 本校施設企画係長の宇野さんより北寮の中庭にある池や日本庭園風の設えについて次のような情報提供をいただいた。北寮建設当時は防火用水として池だけが鉄筋コンクリートで建設されていたが、殺風景であったので昭和56年に石や樹木により現在のような和風庭園風に設えられた。その後、昭和62、3

年頃に屋外消火栓が設置されたので、当該池は防水用としての機能は不要となり、水が抜かれ現在の姿となる。

参考文献

- (1) お茶の水女子大学、お茶大 SCC のご案内。
- (2) News 建築 再春館製薬女子寮、日経アーキテクチャ、1991年9月30日、pp.248-252.
- (3) 妹島和世：再春館製薬女子寮、新建築、1991年10月号、pp.213-222.